

## 生涯学習の推進を図るための参加型学習の方法論（3）

清 國 祐 二

はじめに

### I 保護者の学び合い支援としての参加型学習

- 1 アイスブレイクの意義と活用
- 2 アイスブレイクの展開
- 3 参加型学習への理解

### II 参加型学習の実践に向けて

- 1 参加型学習の教案とワークシート
- 2 実践によって期待される効果

おわりに

はじめに

研究報告11号および12号で、参加型学習の方法論を学習支援の文脈で考察してきた。第一報では、平成15年度より島根県立生涯学習推進センター及び同西部生涯学習推進センターと共同研究を重ねてきた成果を基礎としつつ、筆者のオリジナル教材（ワークシート等）を使った教育実践の紹介を行うことで、参加型学習の効果と課題について報告した。続いて第二報で、参加型学習の一形態であるランキングに着目し、その意義と効果的活用法を述べるとともに、学習状況に応じたワークシートの作成についてプラクティカルな提案をした。参加型学習が地域における有効な学習として定着するには、それを企画し、運営することのできるファシリテーターの存在が鍵を握るため、ワークシート作成技能は大きな一歩を踏み出すために重要であることを論述した。

今回は第三報となるが、学習の対象者と活用する場面を絞り込むことにより、具体性と汎用性をもたせることをねらった。対象者は学齢期の子どもをもつ保護者であり、場面は学級懇談という設定である。家庭教育支援の重要性は教育基本法や社会教育法で言明されなくとも当然のことであるが、実際に個々の家庭に立ち入って家庭教育のあり方を支援することはできない。とすれば、多くの保護者が集まって学習の場が設定でき、参加型学習を取り入れられそうな時間となれば学級懇談の機会となる。年数回の開催ではあるが、まずは学級懇談の活性化から保護者同士の関係性を築くことが現実的ではないかと考えたのである。

その背後には、現代の家庭教育の問題が、ある時には「子育ての孤立化」から生じたり、ある時には「子育て情報の過多」または「必要な情報の不足」に端を発することがある。つまり、先輩保護者との関わりや、保護者同士のコミュニケーションが緊密であれば、問題として顕在化する前に解決されるものが多いということである。同じ学齢の子どもをもつ保護者同士が子育てについて情報交換をすれば、結果として思いを伝えることで気持ちが楽になったり、他の保護者も同じ悩みを抱えていることを知って安心したり、何よりも気軽に話のできる保護者同士のネットワークができ、子育てに向き合う姿勢にも変化が生じ

ると考えられる。

もうひとつのねらいとして、これらの指導案とワークシートを提供することによる家庭と学校の状況変化を期待している。学級懇談の前日にでも、クラス担任がこれらを見て、使えそうなワークシートをコピーして、指導案による進め方を参考にしながら実際に進めていく。保護者が慣れてくれば、PTA役員の研修担当者やクラス役員がイニシアティブをとって進めることも可能となる。これがきっかけとなり、参加型学習が広まり、保護者相互のよりよい関係づくりを支援し、教員と保護者の信頼関係づくりにもつながることが期待される。

## I 保護者の学び合い支援としての参加型学習

### 1 アイスブレイクの意義と活用

アイスブレイクとは、メインの活動に入る前に、心や身体をほぐす目的で実施する活動である。身体を動かしたり、声を出したり、自己紹介をしたり、周囲の人と関わることを通して、リラックスした雰囲気をつくり出す。あくまでもメインの活動をスムーズに行うための手段であるため、長く引っ張ることは避けたい。

アイスブレイクは必ず入れなければならないものではない。特に学級懇談においては、担任からクラスの状況について伝達すべき内容も考えられるため、その時々に応じて判断する必要がある。ここでは数分でできる代表的なアイスブレイクをいくつか紹介するにとどめる。

### 2 アイスブレイクの展開例

アイスブレイクにはさまざまな種類があるが、代表的なものを3つあげておく。加えて、指導案の方にも6つのアイスブレイクを掲載しているので、そちらも参照されたい。なお、表記の仕方がここでは話し言葉にしているが、実用性を重視した結果であるのであらかじめ断っておく。

#### ①「何に見える？～想像力を膨らませて～」

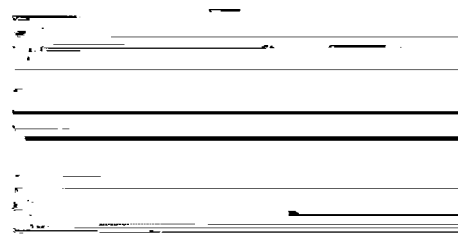
ホワイトボード（黒板）に右のような形を描きます。

T：さて、この形が何に見えるか、みなさん想像力を発揮してください。上から見ても、下から見ても、ひっくり返しても、回しても構いません。何に見えるか、できるだけたくさん書いてください。制限時間は1分です。どうぞ！

T：どうでしたか？10個以上書けた方は抜群の想像力、6個以上はまずまず、5個以下は脳を起こさないといけませんね（笑）。

T：いきなりで面食らった人もいますよね。じゃ、今度は2分用意しますので、隣（グループ）の人で相談して、さらにたくさん書いてください。

T：今度はどうでしょうか？随分書けたんじゃないですか？多いところに発表してもらいましょう。・・・（発表）・・・素晴らしいですね。さて、みなさん、振り返ってください。何に見えるか、って、実は見ればすべて正しいんですよ。極端に言えば、間違いはないのです。それは違う、って否定された人いますか？いませんよね。逆に、ユニークな発想をすると「あ～っ！」ってうなずいてもらえ、嬉しい気分ですよ。さらにいい発想を出してやろう！って。コミュニケーションって、否定される



と「もういってやるもんか」、受容されると「もっといってみようかな」ってなります。大人も子どもも一緒なんです。今日は少々のは発言しても大丈夫ですからね。

このような展開にすると、後の活動での発言がしやすくなります。

## ②ジャンケンを使ったアイスブレイク

### a)「後出しジャンケン」

T：みなさん、私とジャンケンをしましょう。「じゃんけん、ポン、ポン」のリズムで、私の後にポンといって出してください。まずは、私と「あいこ」を出してください。（2～3回）次は、私に「勝って」ください。（3～4回）最後に、私に「負けて」ください。（4～5回）普段負けようと思ってジャンケンしないので最後は難しかったですね。

### b)「ジャンケンぱっちゃん」

T：みなさん、隣のひとと向かい合って簡単な自己紹介をして挨拶を交わしてください。左手で握手をしてください。これから右手でジャンケンをしてもらいます。勝った人は負けた人の左手甲を叩きます。負けた人は叩かれないように右手平で左手甲を守ってください。それではどうぞ。

### c)「進化ジャンケン」

T：みなさんは「カエル」です。これから「ゴッド」を目指してジャンケンをしてもらいます。ジャンケンに勝てば、「カエル→アヒル→サル→ヒト→ゴッド」の順に進化できます。「ゴッド」になった人からあがりですので、回りに並んでください。ジャンケンに負けると「カエル」に逆戻りです。ただし、ジャンケンの相手は同じ種類同士しかできません。さて、はじめましょう。

もっとも単純ですぐにできるアイスブレイクです。保護者に乗ってきてもらうには、ファシリテーターが演じきる必要があります。中途半端は禁物です。

## ③静かにできるアイスブレイク

### a)「時間当て」

T：これからみなさんの時間感覚を確認します。まず練習で20秒。目を閉じて、私が「はい」といってから20秒たった、と思ったところで手をあげて下さい。

T：（30秒ぐらいで）では目を開いて下さい。〇〇さんがぴったりでした。拍手！早かった人が〇〇さん等、遅かった人が〇〇さん等でした。では、1分真剣勝負です。どうぞ！

### b)「伝達ゲーム」

T：一重円を作って、みなさん手をつないでください。〇〇さんを起点にして、右手を握って、次々に右の人に送って下さい。左手が握られたら、右手を握って下さいね。時間を計ります。さあ、はじめ！

## 3 参加型学習への理解

参加型学習はその広がりから市民権を得つつあるが、現状では手法の活用という域を出ていない場合が多く、効果的な活用に向けた十分な理解には至っていない。そのような状況で、教員が保護者の学習に活用しようとする、もうひとつ越えなければならないハードルがある。そこで、教員向けの参加型学習への理解を深めるための補助資料を作成した。この資料は、参加型学習の経験をほとんどもたない教員を想定しており、実践に向けて最低限理解しておかなければならない内容に特化して作成し、挿絵等も入れてソフトなつくりにした。

## 参加型学習の基本

### 1) 何のための参加型学習か？

今回のプログラム集のコンセプトは、「学級懇談で使える参加型学習」です。その目的は、子育てや親子関係をテーマにしながら、保護者同士のコミュニケーションを開き、学びあり、気づきありで、良好な人間関係を築き、明日からの新しいコミュニケーションにつなぐ、ことにあります。

せいぜい1校時(45分程度)の学級懇談でできることは限られています。ここでの時間が未来につながるよう、構想する必要があります。例えば、ここで話し合った内容が参加できなかった保護者に伝わり、次の参加をうながすことにつながることも大切です。そのためには、一定の成果が必要となってきます。

例えば、次のようなことを考えています。

①参加型学習で話し合った内容が家庭でも話題となり、子育てについて改めて家族で考えるきっかけとなった。

②表面的な付き合いしかしていなかった保護者と情報交換ができて、新しい人間関係が広がった。

③保護者同士が仲良くなることによって、子どもたちにもいい影響が及んだ。

学校はそうはいっても保護者の集まれる場です。もしそこで保護者相互の良好な関係が築ける可能性があるのであれば、チャレンジすることも大切ではないでしょうか。

### 2) 参加型学習の基本

子どもを対象とした授業には慣れている先生も、保護者を対象とした参加型学習には戸惑いがあるかもしれません。そこで、ここでは参加型学習の基本について簡単に説明します。

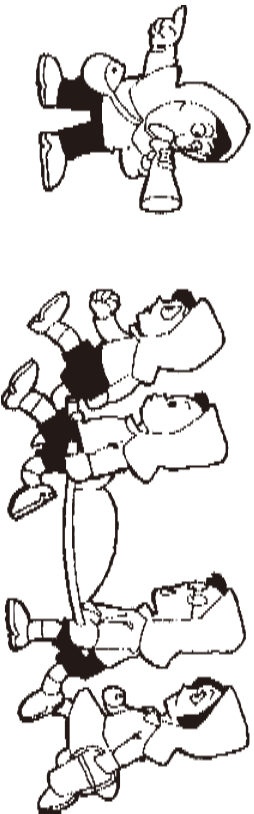
参加型学習の基本形は、概ね次の3つの要素で構成されています。①個人ワーク、②グループワーク、③振り返り・共有化ワーク、です。これをスムーズに展開させるためのアイスブレイク(ほぐし、雰囲気づくり)を組み合わせるとさらに効果が高まるでしょう。子どもの学年や実施する学期など、保護者

同士の関係や保護者が抱えるだろう悩みなどを考慮に入れると話が盛り上がり、成果が出やすくなります。

①個人ワークとは、参加型学習のテーマ(話し合いの課題)について、自分の意見をまとめる時間です。まずは自分の過去の経験や知識、感性や価値観と向き合い、まとめる作業を行います。そうすることで、後のグループワークの中で「埋没しない」自分をつくることにつながります。

②グループワークとは、個人ワークの成果を出し合って話したり、情報交換をする時間です。グループの雰囲気が支持的かつ受容的な場合に最大の効果が得られます。ですから、一部の人の発言が偏ったり、一方的に押しつけるようなことがないよう配慮することが必要です。各々の意見やメンバーから尊重されると、自由な発言がうながされます。さまざまな意見や価値に触れると、自分自身の思考や行動の特性が見えてきて、新しい発見につながります。パーソナリティ(素の自分)が表に出てくると、新しい関係が形成されるようになり、自然発生的に役割が発生します。

③振り返り・共有化ワークとは、個人ワークとグループワークの振り返りの時間となります。ここでは「何を学習したか」というより、グループワークを通して自分の「何がどう変容したか」を見つめることに意義があります。単に学習成果を量るプロセスではなくて、学習を通して人間的な成長を遂げる実感を味わう時間となることです。



少し抽象的に表現すると、参加型学習のプロセスの中で学習者自身が自己表出でき、それが受容され、他者からの触発も加わることで、自己変容の実感と学習ダイナミズムの体感を果たし、学習そのものに対するポジティブな姿勢を獲得できる、ということになります。

参加型学習を通して、学習プロセスとその成果に大きな満足感が得られた場合、結果的にメンバー間に良好な人間関係ができていくという特性があります。その関係が生活場面での課題解決を進める原動力となるかも知れませんし、人的ネットワークが予想もなかった方向へと発展するかも知れません。このように参加型学習は、単に学習活動にとどまることのない、さまざまな関係づくりの源泉であり、多くの副産物



をもたす可能性をもっています。

3) 参加型学習の効果を高めるために

学級懇談で実施する参加型学習は、参加する保護者一人ひとりが大事にされなければなりません。参加型学習を通じて時間内に導き出される直接的な成果（アウトプット）よりも、参加型学習後の保護者にもたらされる広い意味での効果（アウトカム）の方が重要です。保護者にはルールを理解してもらい、それを踏まえて参加してもらうことに配慮することが必要です。以下、最小限のルールを示しておきます。

①「積極的な姿勢」

積極的な姿勢とは、たくさん発言することではありません。話し手の方向に身体を向けたり、注意深く聞いたり、うなずいたりすることも、話し手のよさを引き出す積極的な姿勢です。できるだけコンパクトに要点をまとめて発言し、他の参加者に発言をうながして話し終えるなどの配慮ができれば素晴らしいでしょう。周囲を和ませるユーモラスな話題をはさむことも雰囲気づくりに効果的です。参加者みんなが心地よく学習できるような積極的に自分のできる役割を果たすことができるような参加型学習になればいいですね。

②「進行のルール」

参加型学習は単なるグループでの話し合いとは異なります。それぞれの活動に進め方のルールがあつて、それに沿って進めなければうまくいきません。個別に課題に取り組んでいる時に周囲の人と話を始めると、効果をねらった組み立てが台無しになります。原則として進行者の指示によって話し合いが進められ、不安が生じた場合は進行者が全体に対してその都度解決していくことが必要です。

③「豊かな人権感覚」

参加型学習のテーマによっては私的な内容が発言に含まれることが予想されます。そもそも家庭教育は私的なもので、家族構成や家庭環境、子どもの状況など、すべてをあからさまにはしづらいものです。それが話の文脈の中でポロツと出てきた場合、誰しもある場所で口外されたくはありませんし、そうなれば信頼関係も損なわれ、二度と学習の場に出てこなくなるでしょう。守秘義務のような基本的なことは確認した上で、豊かな人権感覚をもって参加型学習に参加するよううながしましょう。そうすれば、一歩も二歩も踏み込んだ話し合いになるでしょう。

上に示した3項目は保護者に理解していただくべき内容です。最後に、提供者として留意すべきことを記しておきます。保護者はさまざまな背景をもっているため、人前で発言を求められたり、一緒に作業をしたりすることに心理的抵抗を感じる人もいます。学習に不慣れな人（自分の子ども時代に学校が好きでなかった人）にその傾向が見られます。対象者の特性に配慮して、それに合わせた学習形態を選択したり、参加型学習に入る前には心理的抵抗を和らげる活動を十分行うなどの配慮が必要となります。

4) 参加型学習を定着させるために

参加型学習は、時に特効薬となりますが、必ずしも万能薬ではありません。まずは、学級懇談で参加型学習の経験を積み重ねながら、保護者の実態にあった参加型学習を作っていく必要があるでしょう。本プログラム集ではそこまで欲張っていませんし、次のステップは現場において、より実践的な協議を重ねて作り上げることが望ましいと考えています。（プログラム集の巻末には実施後のアンケートをつけていまので、ご協力お願いします。）今後の展開に期待するところ大です。最後になりますが、まとめにかえて参加型学習のそもそも論を紹介します。

広辞苑によると、参加型学習とは第一義として「仕事場」や「作業所」があげられ、次に「研修会」となっています。この第一義から次のような解釈を試みます。参

加型学習そのものは仕事場や作業場の意味からも推察できるように、日常の中にこそあるのではないかと、ということです。例えば、働きやすい仕事場の環境や雰囲気を考えてみましょう。仕事場は目的を達成するための場であるため、責任や指揮系統は比較的明確です。そこでの違いは風土であり、コミュニケーションであり、意思決定への関与の度合い、能力を活かしたり引き出せたりする環境、などになります。そう考えると、理想的な仕事場とはどんなところをいうのでしょうか。私

なりにいうと、自由な発想や発言が許容され、いいものについては支持され、肉付けされることによって形をなしていくようなところです。意思決定がトツプダウンでは

なく、ボトムアップの要素を多く含みます。(上司の力量が反映されると考えてもいいでしょう。) 取り組みべき課題が発生すれば、解決のパフォーマンスを高めるために、みんなが「自分に何ができるか」を考え、発言して、行動します。そうして課題は解決に向けて劇的に前進するような、そんな職場です。



もちろん、職場の実態は必ずしもそうなっていません。個人の能力や意欲の差が仕事量の差に現れているのが現実です。ひとりで組織を変えることはできませんが、だからといって、現実には甘んじているわけにもいきません。もし、職場に素晴らしいフシリターがいて、メンバーの関係を向上させ、コミュニケーションの形を変化させ、仕事の達成感も味わせてくれるとすればどうか。メンバーは感化され、組織のために、自分のために、また消費者のために、今どう行動すればよいかを自律的に考えられるようになるでしょう。そのような理想型に近づけるために支援するのがフシリターなのです。

保護者は職場のメンバーではありませんので、これがそのまま当てはまるわけはありません。しかし、一方で手をこまねいていたのでは何も変わりません。子どもの成長に第一義的に責任をもつのは保護者です。保護者の成長に学校が関われるのであれば、それに越したことはありません。まずはチャレンジしてみましょう。

## II 参加型学習の実践に向けて

### 1 参加型学習の教案とワークシート

学級懇談を想定した教案とワークシートを次頁以降に掲載しているが、その前にそれぞれの見方を説明しておく。学級懇談は授業時間に合わせて実施されることが多いため、設定を45分に揃えた。したがって、教案の時間配分はそれに従っている。【はじめに】と【まとめ】は教員が保護者に語りかける場面を想定して作成している。もちろん、【まとめ】などは実際のアクティビティやシェアリングの様子を受けてのものになるので、最小限の言葉しか含んでいない。進め方はアイスブレイク、アクティビティ、シェアリングの順で進行し、それぞれの活動内容と留意点、準備物を記入している。教員の使用を前提としたため、学校で使用されている教案を見本に作成した。

続いて、ワークシートである。効果的な学びとなるよう、学習目的を達成するに相応しい手法を選択するよう吟味して、ワークシートの作成を行った。外観だけでは分かりづらいが、それぞれのシートには同じ学齢期の子どもをもつ保護者の関心が集まりそうな内容、特定の保護者に発言が偏らないような工夫、構えず自然と情報交換ができるような配慮などが施されている。

これらのワークシートであるが、すべて筆者が実際に保護者を対象とした参加型研修会で使用したものである。研修会の終了後にアンケートをとっており、概ね参加した保護者の反応は良好であった。詳細は次項に譲るが、保護者同士の日頃のコミュニケーションが案外少なく、参加型研修会が新鮮な場となっていたことが印象的である。

以下、6つのテーマの教案とワークシートを掲載する。

テーマ①：子どもに身につけて欲しい力～理想と現実～

◎ ねらい 子どもにはいろいろな力を身につけて欲しいものです。その力とは子どもの実態からくるのか、親の考え方や価値観なのか、保護者同士で考えます。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】 家庭や親によって、子育て方針は少しずつ異なるもの。まず、わが子にはどのような力を身につけさせたいですか。ただし、そこには理想と現実があるはず。わが子を思い浮かべながら、身につけさせたい力のランキングをしてみましょう。		
5	【アイスブレイク】 ① 4人グループ（G）をつくってもらおう。 ② 7本の紐の束を渡して、「左右に垂れた7本の紐から2本選り結んで下さい。そうすると3組結んで1本余ります。左右で余ったもの同士を結びましょう。」と指示して、さあ結果は？	① ランダムが望ましい。 ② グループの相性がわかりやすい、などの言葉で柔らかく。経験上、一本の輪になる確率は2～3割です。	50cmぐらいのカットした荷造紐
8	【ワークシート】 ① ワークシートを配布して、設定を読み上げます。「あなた」の下に名前を記入してもらい、人と相談せず、自分の中の理想と現実それぞれベスト3を選んでもらう。項目の横に1～3を入れるよう指示する。	① 本音と違て前の使い分けに気づいてもらえるよう、できるだけ本心を書いてもらえるような言葉掛けをする。	ワークシート
20	② Gごとに集計する。メンバー欄に名前を書き込んでもらい、数字を書き写す。全体を眺めてもらって、共通する部分、相違する部分に注目して話を進めるよう指示する。	② 話が出づらいう場合は、質問する人と答える人をあらかじめ分けて進めるとよい。	
7	【シェアリング】 ① それぞれの保護者の思いを聴いて感じたことを相互に発表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 無理のないところで素直な自分を表現してもらう。	
3	【まとめ】 今日は、子どもに身につけて欲しい力について考えてもらいました。兄弟姉妹でも違うでしょうし、理想と現実のギャップもあるかと思いますが、また親の価値観も影響したのようです。普段あまり他の保護者の思いや考え方に触れる機会がない中で、今日はいろいろな発見があったのではないのでしょうか。少し肩の力を抜いて、子どもを見つめてみましょう。		

ワークシート①

子どもに身につけて欲しい力～理想と現実～

私たち大人にとって、子どもたちは未来そのものです。未来を生きる子どもたちに身につけて欲しい力を考えてみましょう。下に10項目の力をあげています。「わが子」を思い浮かべながら、わが子に身につけて欲しい力＜ベスト3＞を個人的な思いで結構ですので選んでみて下さい。ただし、理想と現実があるでしょうから、＜理想のベスト3＞と＜現実のベスト3＞を分けて選ぶようにしましょう。理想と現実のギャップや、他の親御さんとの考え方の違いが見えてきて、いろいろな発見があるかも知れません。違いや本音が出てきた方が豊かな意見交換になりますので、気持ちに近いものを選ぶようにしましょう。

項目	あなた		グループのメンバーの名前									
	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
人や環境への思いやり												
生き方の真面目さ・誠実さ												
へこたれない精神力												
周囲をまとめるリーダーシップ												
悪事に染まらない正義感												
協力する力・協調性												
要領よく生きる力												
進学・就職に有利な学力												
周囲を明るくするユーモア												

◆順位をつけながら、ご自身の子育て観について気づいたことを書いてみましょう。

テーマ②：子育ての悩みランキング～さて、みんなは？～

- ◎. ねらい      子育てについては、気になることはあってもつい放っておきがち。ここでは他の保護者がどの程度悩みながら子育てをしているのか情報交換をめざします。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】  家庭教育が大事なことは誰しもわかっています。でも、現状を考えると不安になることも多々あるような…。子育てで基本となるようなことを取り上げ、どれくらい気になる状況なのか、他の保護者と本音で意見交換してみませんか！？		
5	【アイスブレイク】 ① 4人グループ（G）に分かれてもらう。 ② 自分の名刺を3枚作ってもらう。子どもの情報（学年・クラス・名前）自分の情報（名前・出身・ひとことPR）を記入する。Gの他の3人に渡し、自己紹介する。	① なるべく新しい組合せで。 ② ひとり1分で自己紹介をしてもらいます。5分で切るの でみんな発言できるように 配慮してもらいます。	名刺サ イズの 用紙
8	【アクティビティ】 ① 「子育ての悩みランキング～さて、みんなは？～」ワークシートを配布。シートを読み上げて、個人作業に入ってもらおう。	① 「あなた」の下に本人の名前を書いてもらう。A～Eの記入が済んだら「工夫」の欄に進むよう指示する。	ランキ ングシ ート
20	② Gのランキングの一覧表を全員で作る。みんなが発言できるよう、ひとり持ち時間を5分とし、他のメンバーは質問して発言をうながす。時間管理はファシリテーターが行う。	② 日常の振り返りや意見交流が大切です。話しやすい環境づくりも勉強です。	
7	【シェアリング】 ① 今日のワークショップで感じたこと・気づいたことをGで発表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 無理のないところで素直な自分を表現してもらう。	
3	【まとめ】  今日は、普段の子育ての悩みの度合いをみなさんと共有していただきました。お子さんの顔を思い浮かべながら話を聞いていたのではないのでしょうか。また、話を聞いてもらうことはストレス解消につながりますし、話を聞くことは安心（時には焦り？）につながります。まずは保護者が安定することが子育てには大切です。保護者の輪・和を大切にしましょう。		

ワークシート②

子育ての悩みランキング～さて、みんなは？～

子育ては日常です。で、気になることがあっても忙しさにカマけて普段じっくり考えることができません。そこで、今日は子育てについて気になることを保護者同士で出し合ってみようと思います。ありがちな悩みを書き出しました。これらのことは、みなさんにとってどれくらい気になっているのでしょうか。5段階でランクをつけてみましょう。

子育てについて気になること	あなた      な      ま      え				
生活リズムが乱れている（就寝時間や起床時間、朝食などがばらばら）					
家族での決まり事が十分でない（お手伝い、後片付け、大の散歩など）					
家庭学習の習慣ができていない（宿題を後回し、机に向かわない、集中力がでない）					

とても気になっている	A
気になっている	B
気にならない	C
すでにできている	D
大事なことは思わない	E

<上記のことで、工夫していることがあれば記入して下さい。>

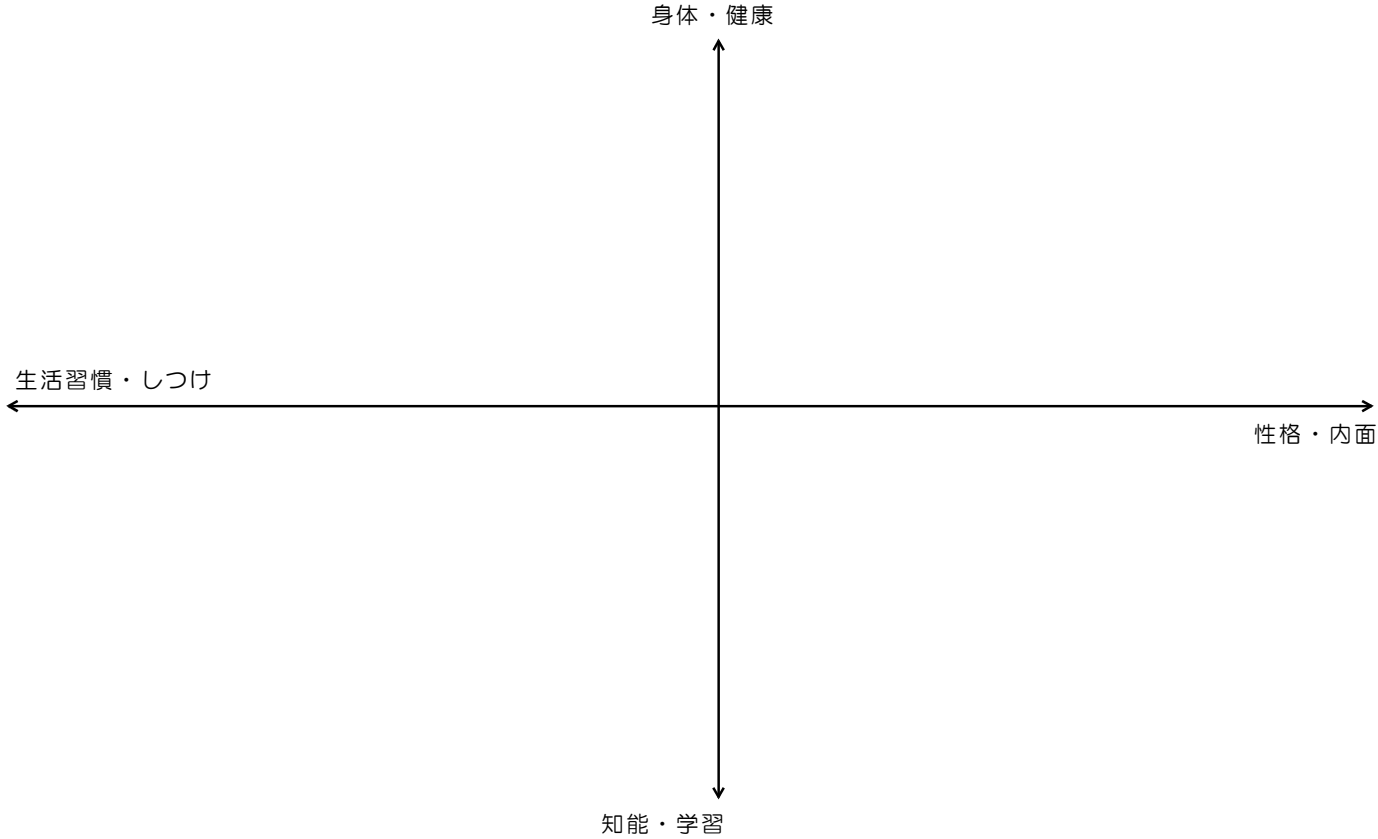


テーマ③：子育ての喜びと悩み～さて、あなたは？～

◎ ねらい わが子であれば、大なり小なり子育てについての悩みや喜びがつきものです。その悩みや喜びを振り返りながら、子どもへのまなざしを相対的に把握します。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】 子どもによって、また親によって、子育ての喜びと悩みは異なるもの。まずはわが子育てを振り返り、どんなところに悩みや喜びを感じているのか、ささいなことでもいいので、書き出してみよう。まずは自分の気持ちに向き合って！？		
5	【アイスブレイク】 ① 一重円に並んでもらう。 ② ボールをもった人が、テーマ設定（例えば、「先生の名前！J）して、「富永先生！」というて次の人にボールを渡す。それを繰り返す。出てこなくなったら、次のテーマに移る。	① 何ももたずに。 ② できるだけ発言していない人にボールを渡すように。緊張させすぎず、失敗しても笑い飛ばしましょう。	ソフトバレーのボールなど
8	【クイズピッチャー】 ① 4人のグループ（G）に分かれてもらい、「子育ての喜びと悩み」について些細なことでもいいので、付箋紙（5×7.5cm）に記入してもらい、各5～8枚ぐらいを目標に。	① 最初は書きづらいので、雰囲気を見ながら「朝自分で起きられないJなどでもいいですよ、と誘導する。	付箋紙 模造紙 水性マシック
20	② 模造紙に付箋紙を貼り付けてもらい。縦横の軸を作っているの、いちばんしっくりくる位置を決めてもらう。発言をうながすために、G内で適宜質問してもらおうとよい。	② 最初に模造紙に縦横の軸と言葉を記入してもらい。板書で示す程度でよい。	
7	【シェアリング】 ① 付箋紙の内容を振り返り、自分の傾向を読み解き、感想を發表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 無理のないところで素直な自分を表現してもらい。	
3	【まとめ】 今日は、みなさんの子育ての喜びと悩みについて考えていただきました。同じ喜びや悩みもあったでしょうし、特有のものもあったことと思います。また、その内容については偏っていたり、ちらばっていたり、それぞれ傾向がつかめたのではないかと思います。まずは、自分の位置を確認していただいて、広い気持ちで子育てに取り組みましょう。		

ワークシート③  
子育ての喜びと悩み～さて、あなたは？～



テーマ④：わが子への思い・願いを考える

- ◎ ねらい 保護者同士が、普段の自分の子育ての中で知らず知らずに抱いているわが子への思いや願いを振り返ることで、親としての自分自身を見つめ直す。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】  子育てとは、親の思いや願いを子どもに託すことでもあります。「これは立て、立てば歩めの親心」という諺がまさにそうでしょう。今日は「子育てBINGO」を使いながら、楽しく子どもへの思いを振り返りましょう。		
5	【アイスブレイク・グループ決め】  ① 隣の人の肩がただける程度の円をつくる。 ② 右隣8回、左隣8回、右隣4回、左隣4回、2回、2回、1回、1回、パシ（拍手）で肩たたきを試みます。1〜2度練習の後、本番！ ③ 円を利用して4人グループを作る。	① 順序は適当で構いません。 ② 本番は「もしもしかめよ」の歌に合わせて。最後が揃うと気持ちよいものです。 ③ 組合せに配慮しましょう。	
10	【アクティビティ】  ① 「子育てBINGO！」（シート1） ゆっくり考えてもらおう。	① シートを読み上げましょう。慎重に9つ選んでもらい、中央マスに「いちばん」を。 ② 基本は中央マスですが、同じ言葉が多い場合は臨機応変に。「リーチ」の確認も。 ③ 気づきにつながるよう配慮しましょう。 ④ 真剣も笑いも大事です。	ワークシート1
5	② 中央マスを順番に発表してもらおう。BINGOになれば拍手で称える。（自己紹介などアリンジも可能） ③ 「言葉のカチゴリー」（シート2） 選択した言葉から「傾向」を確認してもらおう。 ④ 自分の傾向をグループメンバーに発表する。		
7	【シェアリング】  ① 今日のワークシヨップで感じたこと・気づいたことをグループで発表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 守秘義務のルールを伝えて、素直な自分の気持ちを表現してもらいましょう。（ただし無理強いは禁物です。）	
3	【まとめ】  今日は、保護者のみなさんに普段の自分の子育てを振り返りつつ、子どもへの思いや願いを少し客観的にとらえていただきました。他の保護者との違いも興味深かったですね。パラスや偏りなどの現状をまずは受け入れて、子どもの顔を思い浮かべながら、思いや願いについて肩の力を抜いて再考してみましょう。		

ワークシート④

テーマ：「わが子への思い・願いを考える」

私たちはごく普通に子育てをしています。子育ては楽しくもあり、大変でもあります。親として優しくもなれ、厳しくもなれます。子どもは親や大人に大きな希望を抱かせたり、失望させたりします。そのように、小さな変化に囲まれながら親子ともに成長しています。家庭という小さな世界で子育てしていると時々不安になります。「よそのお宅ではどうしているんだろう？」と思うこともしばしばです。普段何気なく考えていることも、保護者の間では少しずつイメージが異なっています。その違いを確認して、自分の位置を知ることとはとても重要なことです。

今日は、私たちがもっている「わが子への思い・願い」について改めて考えてみます。私たちはわが子に「できるようなうになって欲しい」「身につけて欲しい」「経験して欲しい」ことを少なからずもっています。その是非はひとまず置いて、みなさんの子育てを振り返りつつ、わが子への思いが何なのかを改めて考えてみましょう。  
手法としてはビンゴゲームを利用します。下に掲げた言葉の中から、みなさんの思いに近いものを9つ選択し、9つのマスに自由に記入して下さい。ただし、中央のマスには、いちばん強い思いを記入して下さい。

・きちんとあいさつ	・役に立つ資格取得	・昔ながらの遊び	・家族旅行
・異世代との触れ合い	・少年団体での活動	・地域行事への参加	
・シヨビビンダ	・奉仕活動への参加	・川遊び	・釣り
・ライバルとの切磋琢磨	・規則正しい食事	・科学の不思議体験	・早寝早起き
・ホラソニア活動	・伝統芸能の継承	・探検や木登り	・楽しく勉強
・目標に向けた学習	・決まった手伝い	・創作活動に熱中	・読書活動
・さっぱり宿題	・友だちとの集団遊び	・共同生活体験	・遊園地遊び
・地域施設の活用	・思いっきり外遊び	・身辺の整理整頓	
・観劇や映画鑑賞			

子育てBINGO！


解説シート④

解説編：ピンゴに取上げた言葉のカテゴリ

1. みなさんを選んでもらった言葉には何が多かったでしょうか？  
それは、①地域の特色を反映しているでしょうか？  
②時代を反映しているでしょうか？  
③想定する兄弟姉妹によって異なるでしょうか？  
④みなさんの年齢や性別、立場を反映しているでしょうか？
2. ピンゴに取り上げた言葉は、下のようなカテゴリに整理できます。どのカテゴリの言葉を多く選んでいますか？確認してみましょう。

＜基本的生活習慣＞	きちんとあいさつ	早寝早起き	身の整理整頓
	規則正しい食事	決まった手伝い	
＜学業＞			
楽しく勉強	きっちりの宿題	目標に向けた学習	役に立つ資格取得
ライバルとの切磋琢磨			
＜遊び＞			
思いっきり外遊び	友だちとの集団遊び	昔ながらの遊び	
川遊び・魚釣り	探検や木登り		
＜地域活動＞			
地域行事への参加	異世代との触れ合い	地域施設の活用	
伝統芸能の継承	奉仕活動への参加		
＜体験活動＞			
創作活動に熱中	科学の不思議体験	ボランティア活動	共同生活体験
少年団体での活動			
＜娯楽・アミューズメント＞			
家族旅行	観劇や映画鑑賞	遊園地遊び	ショッピング
			読書活動

3. 自分の傾向を確認しながら、保護者同士で感想を述べ合ひましょう。

テーマ⑤：もし子どもが・・・？考えてみましょう！

- ◎ ねらい 同じ年齢の子どもをもつ保護者同士が、普段の自分の子育てについて情報交換すること、あらためて親のあり方と子どもの成長・発達を考える。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】  子育ては毎日のことですから、忙しさにかまけて、ゆっくり時間をかけて子どもと接することが疎かになりがちです。今日は「家庭教育手帳」の内容をもとに、子どもへの接し方を少し距離を置いて、あらためて見つめ直してみしましょう。		
5	【アイスマイク・グループ決め】 ① 携帯番号の末尾2桁を頭に思い浮かべる。 ② ロと指を使わずに番号順に1列（円）になる。 ③ 合っているか確認して4人グループを作る。	① 固定電話の番号でもよい。 ② 足で書いたり、拍手をして知らせる等は認める。 ③ 新しい関係づくりに配慮する。	
5	【アクティビティ】 ① 「子育てウォッチング」（シート1） 文意が一致するカードを並べます。 ② グループに尋ねながら答合わせ。	① 上の句は一覧で、下の句はばらばらにして準備する。 ② 間違っていないか励ましの言葉掛けをしましょう。 ③ グループワークの前の個人ワークが重要です。これには「ひとつの正解はない」ことを確認しておきましょう。 ④ 話し合いの様子についてコメントしましょう。	ワークシート1&2
15	③ 「子育て因果廊報」（シート2） まずは個人で書き込みます。（5分） グループで発表し合います。（10分）		
3	④ フォシリテーターのコメント		
7	【シェアリング】 ① 今日のワークシヨップで感じたこと・気づいたことをグループで発表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 守秘義務のルールを伝えて、素直な自分の気持ちを表現してもらいましょう。（ただし無理強いは禁物です。）	
3	【まとめ】  今日は、保護者のみなさんに普段の自分の子育てを振り返りつつ、子育てに大事なこと、留意しなければいけないこと、などを考えていただきました。他の保護者の方がどのような考えをもち、どのような子育てをしているかについても、垣間見ることができたのではないのでしょうか。子育てがオアワニにできれば、もっと楽しくなるかも知れませぬね。		

ワークシート⑤-1

## もし子どもが・・・？考えてみましょう！

① もし、子どもが 親の笑顔を見て 育つど？	幸せをしっかり感じる人になります。
② もし、子どもが 将来に向かって努力する親の姿を見て 育つど？	目標をもつことはよいことだと思います。
③ もし、子どもが 親から同じ目線で話をじっくり聞いてもらって 育つど？	心が安定し、人を愛するようになります。
④ もし、子どもが ゆとりある自由な時間を与えられて 育つど？	心から遊びを楽しんで、創意工夫する力が身につきます。
⑤ もし、子どもが 自然の中でしっかりと遊んで 育つど？	驚きや感動を体験し、豊かな感性が育まれます。
⑥ もし、子どもが 幼児の時期から 同じ年代の子どもと遊ぶ機会に恵まれて 育つど？	社会性が育ちます。
⑦ もし、子どもが 祖父母を大切にすると 親の姿を見て 育つど？	広く人を思いやる心のある人になります。
⑧ もし、子どもが タメなところを責められるのではなく、よいところをほめられて 育つど？	自信をもち、自尊心が育まれます。

ワークシート⑤-2

## もし子どもが・・・？考えてみましょう！

① もし、子どもが 幼児期から過度に 習い事をさせられて 育つど？	
② もし、子どもが 一貫性のないしつけをされて 育つど？	
③ もし、子どもが イライラした親に感情的に扱われながら 育つど？	
④ もし、子どもが 安易にものを買い与えられて 育つど？	
⑤ もし、子どもが 悪いことをしても きちんと正されずに 育つど？	
⑥ もし、子どもが ルールを守らない親を見ながら 育つど？	
⑦ もし、子どもが テレビやゲームばかりに子守されて 育つど？	
⑧ もし、子どもが 他の子どもと比べられて 育つど？	



テーマ⑥：子どもとの接し方～さて、あなたは？～

◎ ねらい 子どもは日常の営みなので、せしや煩わしさから親の方が余裕をなくしてしまいがち。「普段の私」と「ありたい私」を比較しながら、自分自身を見つめ直す。

分	主な活動	留意点	準備物
2	【はじめに】 子どもには優しく接したいと思いつつ、いつも急かしたり、注意したり。日常でありがちな場面を想定して、「普段の私」と「ありたい私」のギャップを確認しましょう。目の前に子どもがいない状況なら、すぐ優しく考えられるかも！？		
5	【アイスブレイク】 ① 4人グループ（G）に分かれてもらう。 ② 新聞紙を1枚ずつ配る。2枚に破り隣のGへ。4枚に破り隣のGへ。バズルの要領で再掲。8枚に破り隣のGへ。そしてバズル。最後は16枚に破り自分のGでバズル。（新聞バズル）	① なるべく新しい組合せで。 ② 隣に渡すときにシャッフルして競争意識を煽りましょう。最後の「落ち」を十分意識して。	新聞紙
10	【アクティビティ】 ① 「子どもとの接し方～さてあなたは？～」状況設定シートと回答シートをセットで配布。（個人作業が大切）	① シートを読み上げて、回答シートには「現実」と「本音」を正直に書いてもらいます。	状況設定シート
15	② グループ内での発表、意見交換。その後に、「ありたい私」のベストアンサーを決定。	② 日常の振り返りや意見交流が大切です。	回答シート ベストアンサーシート
5	③ ベストアンサーの決定理由を中心に全体発表。	③ 必ずしもすべて発表する必要はありません。時間との相談です。	ベストアンサーシート
5	【シェアリング】 ① 今日のワークシヨップで感じたこと・気づいたことをグループで発表し、共有する。 ② 時間のゆとりがあれば、全体で共有する。	① 守秘義務のルールを伝えて、素直な自分の気持ちを表現してもらいましょう。（ただし無理強いは禁物です。）	
3	【まとめ】 今日は、保護者のみなさんにこれから遭遇するかも知れない場面で、子どもとどう接するかについて思いを馳せていただきました。実際の場では、感情の方が先に立つかも知れませんが、こうしてあらかじめ考えておくことで多少なりとも冷静な接し方ができるかも知れません。力を抜いて再考してみましょう。ベストアンサーに近づけるよう志を高くしましょう。		

ワークシート⑥-1

子どもとの接し方～さて、あなたは？～

状況設定

＜お手伝い編・年長～小学生低学年＞

子どもがおうちでお手伝いすることに喜びを感じるようになりました。うどん打ちのお手伝いをしてくれています。子どもにとっては難しい作業でなかなかうまくできません。こんな時、あなたはどのように子どもに声をかけて、どうさせますか？余裕のあるときと、ないときで接し方が変わりますか？

＜親子の関わり編・小学校高学年＞

小学校高学年ともなると、身体の成長が著しくなります。家事を終えた夜、リビングであなたがくつろいでいると、身体が大きくなった子どもがひざの上に乗ってきました。あなたとしては、疲れを癒すためにゆっくりしたいのですが…。さて、こんなときあなたはどのように反応しますか？

＜友だち関係編・小学生全般＞

学校にはさまざまな児童がいます。優しい子ども、粗暴な子ども、おとなしい子ども、活発な子ども、運動のできる子ども、勉強のできる子ども、身体の大きい子ども、などなど。そのような多様な児童がいるクラスで、あなたの子どもの「からかい」にあっているようです。さて、あなたは子どもにどのように語りかけ、行動するようにうながしますか？また、学校への連絡についてはどう考えますか？

＜物事への対処の仕方編・小学生全般＞

子どもが外で友だちとドッジボールで遊んでいました。だんだん遊びがエスカレートして、ボールをキックするようになってきました。かなり強くキックしたボールが近所さんの車にあたってしまい、ドアの部分が凹んでしまいました。それを夜になって、子どもがあなたに報告しました。さて、あなたはどのような言葉をかけ、どのような行動をとりますか？

＜勉強編・中学生＞

入学後、はじめての中間試験が終わりました。最初ということもあり、子どもなりに準備をして試験に臨んだようですが、結果は可もなく不可もなく…。これが競争社会の出発点なので、ここでの一言は大きい気がします。さて、あなたは子どもにどのような声かけをしますか？

ワークシート⑥-2  
子どもとの接し方～さて、あなたは？～  
普段の私  
ありがたい私

①	①
②	②
③	③
④	④
⑤	⑤

ワークシート⑥-3  
子どもとの接し方～さて、あなたは？～  
ベスティアンサー

①
②
③
④
⑤

## 2 実践によって期待される効果

家庭教育とは文字通り解せば「家庭で行われる教育」となるが、完全に社会から独立した家庭はないのであり、絶えず社会の影響を受けながら行われているのが実態である。直接的な家庭教育の支援が行いにくいのは、家庭という空間が閉じていることで外部に伝わらないからであり、独善的であったとしても親の価値観が支配可能だからである。ここに立ち入ることは現実的ではないため、まずはフォーマルな場面において抵抗感の少ない形で支援をしようというのが今回の意図である。

実際に保護者向けに実施した参加型学習の教案とワークシートを掲載したが、それらに共通するねらいや目的がすなわち実践によって期待される効果である。それぞれのワークシートの背後には、参加者全員ができるだけ平等に発言の機会をもち、少数意見に注目が集まり、意見を引き出す＝質問すること、に配慮するよう、仕掛けを張り巡らせている。参加型学習は単なる話し合いではないことが重要であり、それをうまくコントロールするのがファシリテーターの役割である。

ここで、参加した保護者の代表的な感想や意見を掲載する。

「自由な話合いの過程で自分自身に気づき、保護者同士の信頼関係が深まった。親同士の横のネットワークを感じた。家庭数76の小さなPTA組織ではあるが、今日はじめて会話をした方がいらした。そのことが新鮮であり、その方と次にどんな話題の会話ができるかわくわくしている。」

「一人っ子なので自分の子育てが正しいのか否かが不安である。わが子の実情を相談すると、『同じよ』と言ってくれると安心できる。子どもの年齢が異なる方、また、大勢の子どもを育てた方との会話は新鮮味があり、自分自身はこのような機会をとらえて子育てに役立てたい。」

「子どもが幼いため、自然の中でのびのびと育てているつもりであった。しかし、ビンゴゲームの中心には、『役に立つ資格取得』と書いていた。その周囲には、『学業』のカテゴリーに入る言葉を多く選択していた。無意識のうちに大きな期待を子どもに背負わせている自分を反省している。」

背景の異なる保護者の集まりであるため、学習による気づきは多様である。とりわけ家庭教育をテーマとした参加型学習は答を見つけることが目的ではない。わが家の家庭教育を相対化することであり、さまざまな価値観に触れることである。最終的には、同じ学齢期の子どもをもつ保護者の良好な関係を築くことで、インフォーマルな家庭教育相談へとつながることが理想なのである。

## おわりに

参加型学習は、学習者の内側にある思いを引き出すことが重要である。親しい間柄であったとしても日常会話の中では改まって話しづらいこともある。話せるきっかけづくりの手法が参加型学習という学習方法・形態である。学習者それぞれが身にまとった鎧をおろし、素に近い私としての思いを交換することで、自分の位置を相対化することができる。日頃の思いを吐露して気持ちが楽になったり、他者の考え方に共鳴・共感したり、改めて気づかされたり、他者の新しい一面を発見したり、課題解決へ向けてエネルギーを得たり、学習を契機にネットワークがつくれたり、参加型学習の可能性は学習者の状況によって多様な形で結実する。

今回は家庭教育をテーマとしたが、社会の激動期を迎え、公共のあり方や地域づくりへこの参加型学習がどう貢献するかが大きな課題となってきた。継続して研究を進めたい。